

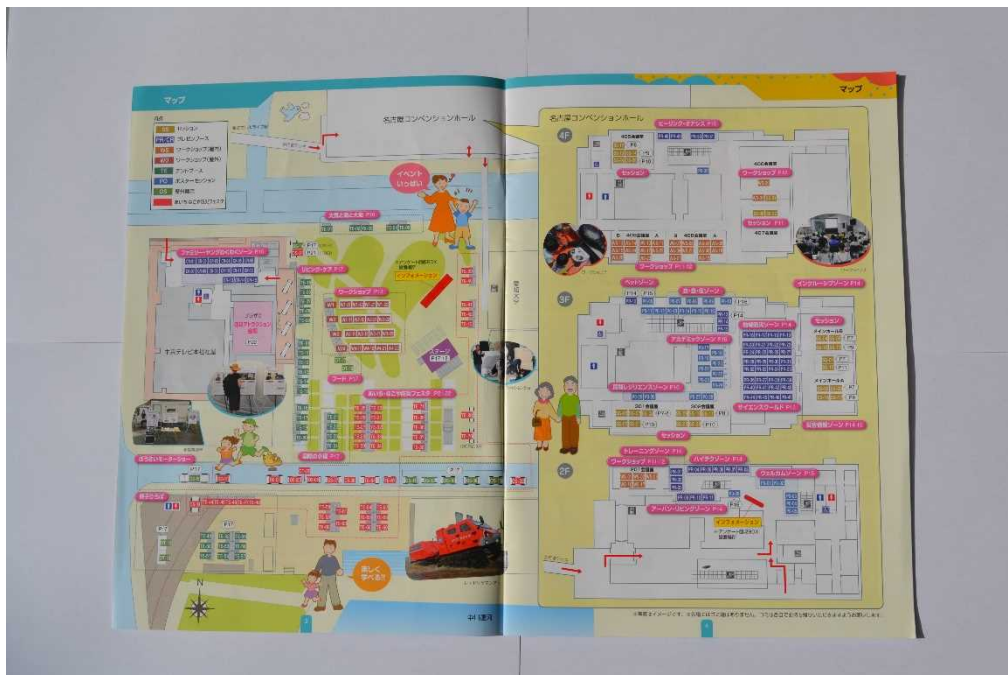
「ぼうさい こくたい 2019 in 名古屋」 散策

10月19日(土)・20日(日)の二日間、令和初の「ぼうさい こくたい」並びに「あいち・なごや防災フェスタ」が同時に開催されました。また、折から「名古屋まつり」も開催されていることから19日のみ午後5時30分から「三英傑・三姫との写真撮影会」が名古屋コンベンションホールにて行われました。

名古屋駅から名古屋臨海高速鉄道「あおなみ線」に乗り、1区間の「ささしまライブ駅」から徒歩3分のところに今回の防災イベント会場があります。

駅から2階連絡通路を渡り、直接、名古屋コンベンションホールへ行くことができました。

開催日が10月19日(土)ということもあり「防災を、もっと日常に」のキャッチフレーズ通り防災を身近に感じ、また、学習しながら一日を有意義に過ごされたご家族連れが多く見られました。



ささしまライブエリアの中京テレビ内には、ブース展示や脱出ゲーム、名古屋コンベンションホール内には、さまざまなセッションやワークショップ、ブース展示を行うところがありました。

また、なごや地球広場内では、世界の「今」と「未来」に参加しよう！というイベントを開催している建物がありました。

一方、屋外のキャナルゲートエリア内の、コーナーの一角では起震車の体験コーナーに行列ができており、テントブースでは、消防署や自衛隊などの車両の展示、また、パークエリアにもテントブースやステージイベントも開催され、特にトイレに居て地震と遭遇した時や、避難所などで切実な問題として直面する「うんこ先生プレゼンツ」は、子供さんたちに大受けて、ステージが終わるたびにユルキャラ風のとても可愛い「うんこ先生」とツーショットの記念写真を撮るなど、大変な賑わいを見せていました。

コンベンションホール3階のブースが連なる一角（PR-39）に、NPO法人日本防災士会のブースが設置されており、日本防災士会の紹介や活動内容等をご理解いただくための4種類のパンフレットとメールマガジン会員登録と防災士研修講座のご案内の2種類を「助けられる人から助ける人へ 防災士」とタイトル入りの封筒に入れて、訪れる方々へ配布されていました。



隣には、セッションを開催するホールがあるため、セミナーやパネルディスカッションが終了するたびに人の入れ替えが行われ、周辺は、人の熱気に包まれ、ブースを運営しているところでは、多くの来場者にPRが出来るゴールデンタイムの時間となっていました。

そして、この2日間で日本防災士会のブースへご来場された方は、配布した資料の封筒の数からして、両日合わせて約650名の方がお見えになり日本防災士会のPRが出来たと伺っております。

また、隣の部屋（メインホールA）におきまして、「地区防災計画のこれからを考える」のテーマによるパネルディスカッションが、午後4時30分～午後6時まで開催されました。

7人のパネラーの一員にNPO法人日本防災士会松尾理事長が参加され、日本防災士会は『地区防災計画イコール日本防災士会、日本防災士会イコール地区防災計画と認識して頂きたい』との強い思いを語られた後、日本防災士会の目的や活動理念など多岐に亘り説明をされました。

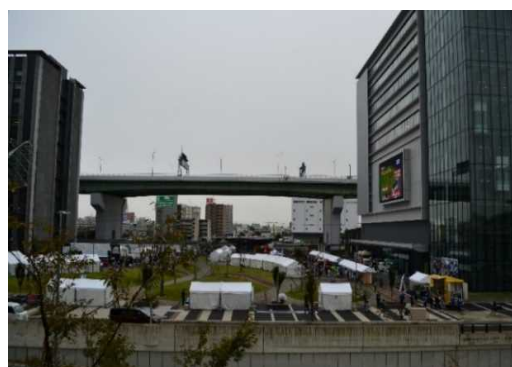
そのあ他のパネラーの方へと説明が続き、地区防災計画への取り組みや思いを割り当てられた時間の中に貴重なデータや説明をお聞きすることができ、大変、新鮮な感覚と感動を覚えました。



ささしまライブ駅から延びる通路



名古屋コンベンションホール



パークエリア



キャナルゲートエリア

今回、名古屋市内ということと、更には名古屋駅に近い場所ということもあり、内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議主催による「ぼうさい こくたい」が開催されることに伴い、微力ながら愛知県防災士会がお役に立つことができればとの思いから、集客効果を高めることの役割が大切と考えた施策として、支部会員350名をはじめ日本防災士会東海支部連絡協議会（静岡県・岐阜県・三重県の三支部）並びに名古屋市内約300の郵便局に対してパンフレットを送り今回の活動をPRさせて頂きました。

文責・写真：愛知県防災士会 阿部 健二